

自然災害に備えて

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）

平成30年度 第2期（平成31年1月24日～3月1日）

内閣府（防災）

内閣府（防災）では、「危機事態に迅速・的確に対応できる人」、「国・地方のネットワークを形成できる人」を「防災スペシャリスト」に求める人材像と定め、国や地方公共団体等の職員を対象とした「防災スペシャリスト養成研修」に取り組んでいます。

本研修では、災害リスクや防災に関する法制度などの基礎分野から、災害対策本部運営などの幹部職員に必要なマネジメント分野に至るまで、防災スペシャリストに必要な知識・技能・態度を、座学や演習を通じて体系的に学ぶことができます。

■平成30年度第2期 開催日程（1/24～3/1）

日	月	火	水	木	金	土
1/20	21	22	23	24	25	26
				防災基礎		
27	28	29	30	31	2/1	2
		対策立案		指揮統制		
2/3	4	5	6	7	8	9
		人材育成		総合監理		
10	11	12	13	14	15	16
			災害への備え			
17	18	19	20	21	22	23
		応急活動・資源管理		警報避難		
24	25	26	27	28	3/1	3/2
		被災者支援		復旧・復興		

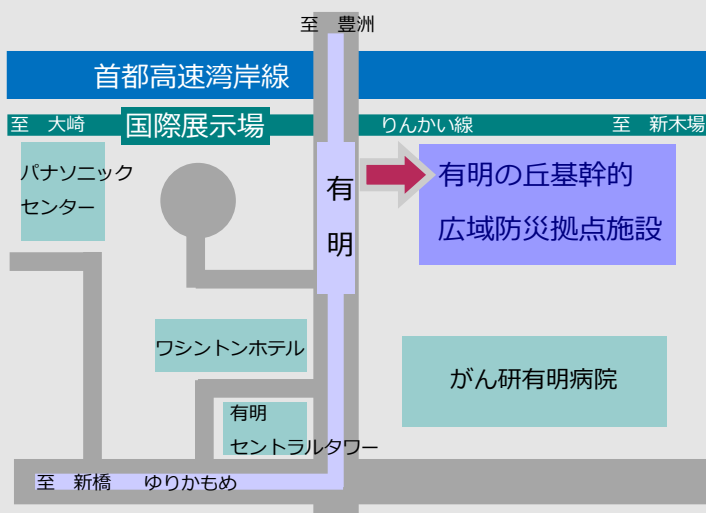
■会場

有明の丘基幹的広域防災拠点施設

東京都江東区有明3丁目

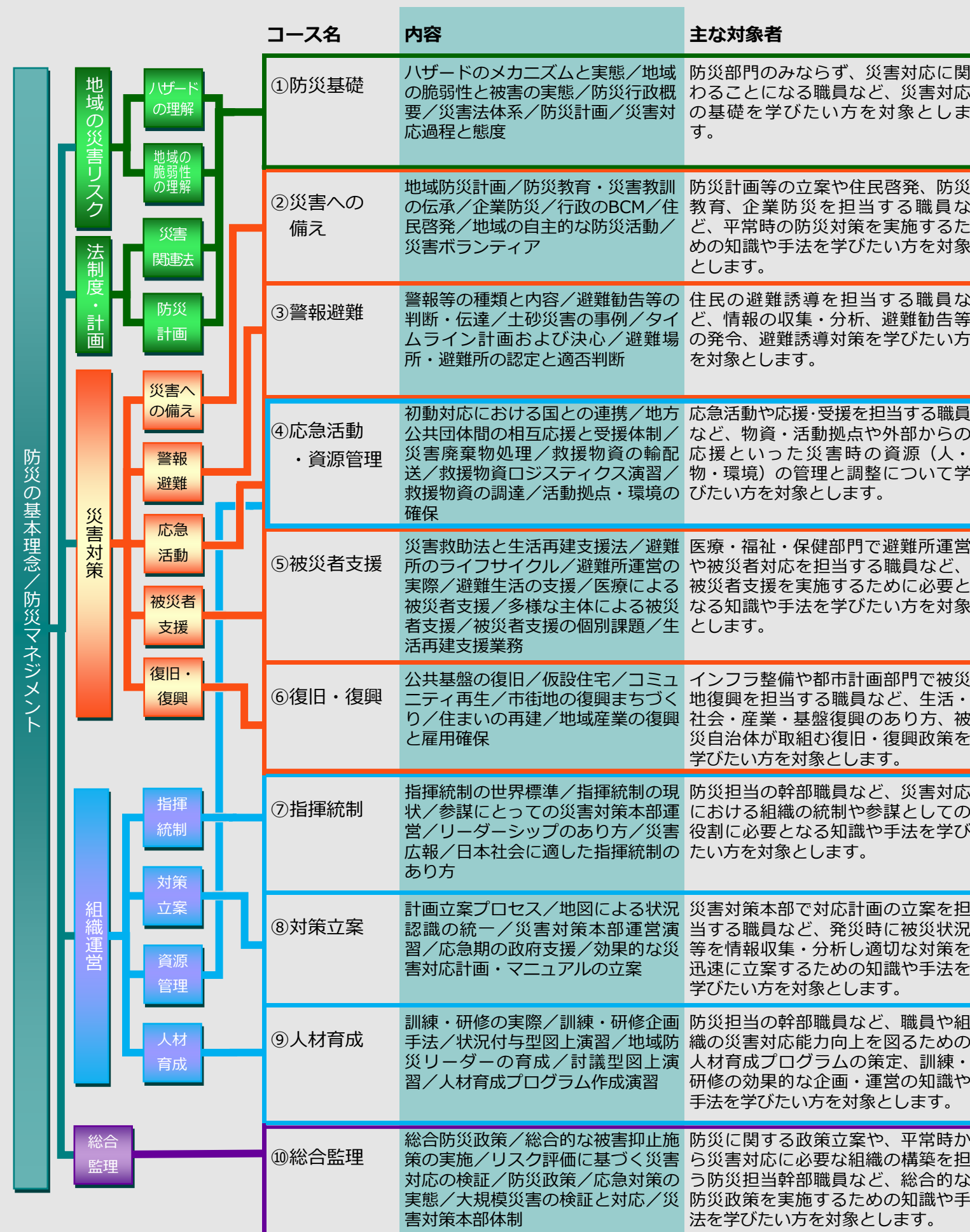
●アクセス

りんかい線 国際展示場駅より徒歩4分
ゆりかもめ 有明駅より徒歩2分



有明の丘基幹的広域防災拠点施設は、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）の各コースの概要



主催 内閣府（防災）

企画・運営 Science Craft 株式会社サイエンスクラフト

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

ホームページ：https://bousai-ariake.jp/

平成30年12月11日版

研修カリキュラム

【平成30年度 第2期】

「防災基礎」

◇コースコーディネーター◇ 牛山素行（静岡大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月24日	防災基礎総論 防災・危機管理の基本的な考え方を学びます。	ハザードのメカニズムと実態 ハザードのメカニズムと災害による被害や防災対策を学びます。		地域の脆弱性と被害の実態 人的被害の実態や地域を知ることの重要性を理解し、防災情報に基づく避難のあり方について学びます。	
1月25日	防災行政概要／災害法体系／防災計画 防災活動全体の流れと個々の活動の基礎的な知識とともに、災害対策基本法・災害救助法などの災害関連法の体系や防災計画の概要を学びます。		災害対応過程と態度を学ぶ(演習) 災害発生前後の地方公共団体の対応について具体的な事例に沿って学びます。		全体討論・閉講 災害対応の基本について学んだことを、受講者が担当する業務コードのよう に 反映させるのかを考えます。

「災害への備え」

◇コースコーディネーター◇ 丸谷浩明（東北大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月13日	「災害への備え」総論 自助・共助・公助による減災や被害予測など減災対策の基本的な考え方を学びます。	「災害への備え」としての地域防災計画 自治体が地域防災計画や地区防災計画をどのように災害への備えに活用するのかを実践的に学びます。	行政のBCM 行政におけるBCMの意味と策定のポイントについて学びます。	企業防災 企業が災害時に果たすべき役割を認識し、企業と行政が連携した防災活動について学びます。	「災害への備え」ワークショップ(演習) 防災行政における自助・共助・公助の実践的な推進の仕方についてワークショップ形式で学びます。
2月14日	防災教育・災害教訓の伝承 地域に根差した防災活動を実施するための防災教育および災害教訓の伝承について学びます。	住民啓発 住民向けの防災の啓発と地域の防災訓練の基本的な事項について学びます。	地域の自主的な防災活動 住民の自主防災組織、地域の企業やNPO等の自主的な防災協力について学びます。	災害ボランティア 災害ボランティアや企業、市民団体、個人等の自発的な防災協力について学びます。	全体討論・閉講 減災対策について学んだことを、受講者が自らの自治体でどのように反映させるのかを考えます。

「警報避難」

◇コースコーディネーター◇ 井ノ口宗成（富山大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月21日	警報避難総論 警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学びます。	警報等の種類と内容 警報等の種類と内容、伝達について学びます。	避難勧告等の判断・伝達 避難勧告等の判断と伝達方法について学びます。	土砂災害における警報と避難 土砂災害における警報と避難の実務について学びます。	土砂災害の事例に学ぶ(演習) 土砂災害の事例から土砂災害における警報と避難について、その実態を演習形式で学びます。
2月22日	風水害における警報と避難 風水害における警報と避難の実務について学びます。	風水害におけるタイムライン計画および決心(演習) 風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法を演習形式で学びます。	避難場所・避難所の認定と適否判断 避難場所・避難所の種類とその設置要件、及び災害ごとに避難場所・避難所の適否判断をするうえで行動を演習形式で学びます。	全体討論・閉講 警報避難について学んだことを、受講者が担当する業務コードのよう に 反映させるのかを考えます。	

「応急活動・資源管理」

◇コースコーディネーター◇ 宇田川真之（東京大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月19日	応急活動・資源管理総論 応急活動の流れと資源管理に関する基本的な考え方について学びます。	初動対応における国との連携 国における初動対応の内容とその連携のあり方について学びます。	地方公共団体間の相互応援と受援体制 災害時の行政機関の間で行われる応援受援の仕組みと受援体制について学びます。	災害廃棄物処理 災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学びます。	資源管理演習 災害対策本部における資源(人的、物的、空間・サービス)の確保、管理における留意点などを演習形式で学びます。
2月20日	救援物資の輸配送 救援物資の輸配送に関する実務と課題について学びます。	救援物資ロジスティクス演習 救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを演習形式で学びます。	活動拠点・環境の確保 応急活動を行うために必要となる活動拠点や通信サービス等の確保について学びます。	救援物資の調達 救援物資の調達に関する実務と課題について学びます。	全体討論・閉講 災害時の物資物流と広域的な応援体制について学んだことを、受講者が担当する業務コードのよう に 反映させるのかを考えます。

「被災者支援」

◇コースコーディネーター◇ 田村圭子（新潟大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月26日	被災者支援総論 被災者支援の実態と被災者支援の全体像を学びます。	災害救助法と生活再建支援法 被災者支援における災害救助法と生活再建支援法の位置づけや各制度、手続き、適用事例を学びます。	避難所のライフサイクル 運営体制の確立、運営、被災者のニーズへの対応、解消までの避難所のライフサイクルを学びます。	避難所運営の実際 事例を基に避難所運営の実際を学びます。	避難所のライフサイクル(演習) 避難所のライフサイクルを演習形式で学びます。
2月27日	避難生活の支援 災害時要配慮者を始めとする避難生活への支援対策を学びます。	医療による被災者支援 医療チームの活動と医療支援のサイクルなど医療による被災者支援を学びます。	多様な主軸による被災者支援/被災者支援の個別課題 専門職能における被災者支援と被災者支援の個別課題を学びます。	生活再建支援業務 家屋の被害認定から罹災証明の発行と罹災証明を基にした一連の生活再建支援業務を学びます。	被災者支援のタイムライン策定(演習)/全体討論・閉講 避難所運営と被災者支援について学んだことをもとに被災者支援のタイムラインを策定します。

- ※ 受講したい内容に応じて各コースを自由に選択し、組み合わせ履修できます。
- ※ 研修カリキュラムは、変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

「復旧・復興」

◇コースコーディネーター◇ 中林一樹（明治大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月28日	復旧・復興総論 復旧・復興の理念とプロセスの全体像について学びます。	公共基盤の復旧(基盤復興Ⅰ) 被災地・被災者の生活再建・復興の基盤となる、公共インフラの復旧について学びます。	仮設住宅(生活復興Ⅰ) 仮設住宅供給の意義と課題、借り上げ応急仮設住宅(見なし仮設)及び仮設住宅の建設についての県と市町村の役割分担、建設用地の選定や確保、入居と管理運営、撤去などの課題を事例に基づき学びます。		コミュニティ再生(社会復興) 地域社会の再生(つながり・コミュニティの継続と活性化)について事例を通して学びます。
3月1日	市街地の復興まちづくり(基盤復興Ⅱ) 土地区画整理事業など市街地の基盤を再整備する復興まちづくりの意義と課題を事例に基づいて学びます。	住まいの再建(生活復興Ⅱ) 被災者個人の生活再生とその基盤となる被災者の住まいの再建について体系的に学びます。	地域産業の復興と雇用確保(産業復興) 地域社会の活力と被災者の雇用確保のための産業復興について事例に基づいて学びます。	復旧・復興演習(復旧・復興対策の事前準備) 自らの自治体の地域防災計画の復旧・復興編を検証し、復興対策の体系や体制を演習形式で学びます。	全体討論・閉講 事前復興の取り組みの事例を通じて、自治体で事前復興に取り組む可能性と課題を考えます。

「指揮統制」

◇コースコーディネーター◇ 林春男（防災科学技術研究所）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月31日	指揮統制総論 災害対策本部組織を統制していくための、世界標準に即した理論と基礎構造を学びます。	指揮統制の世界標準 世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる8つの役割を学びます。	指揮統制の現状 大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語ります。	参謀にとつての災害対策本部運営 どのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学びます。	リーダーシップのあり方 リーダーシップの理論と指揮命令を行うための要求事項を学びます。
2月1日	災害広報演習 地方公共団体の災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、被災者に向き合い、どう語るのかを学びます。		日本社会に適した指揮統制のあり方 大規模災害を経験したトップの指揮統制を、世界標準(6つの視点と13の原則)に照らして検証します。		全体討論・閉講 指揮統制について学んだことを、受講者のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考えます。

「対策立案」

◇コースコーディネーター◇ 林春男（防災科学技術研究所）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月29日	対策立案総論 災害対応における対策立案の考え方と情報統括、活動サイクル、体制について学びます。	計画立案プロセス 「当面の対応計画(インシデントアクション・プラン)」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学びます。	地図による状況認識の統一 統合された情報システムとGISの活用の有効性について学びます。	災害対策本部運営演習 災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学びます。	
1月30日	応急期の政府支援 各省庁から提供される具体的な支援の内容について学びます。(政府の全体的な初動対応は資源管理コース「初動対応における国との連携」で学べます。)		効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習 災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、災害対応マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に演習形式で学びます。		全体討論・閉講 災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考えます。

「人材育成」

◇コースコーディネーター◇ 黒田洋司（消防防災科学センター）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月5日	人材育成総論 人材育成の必要性や戦略、法律、計画を学びます。	訓練・研修の実際 国や地方公共団体が実際に実施している訓練や研修の事例を学びます。	訓練・研修企画手法 防災訓練・研修を企画する際のポイントを学びます。	訓練企画運営実践Ⅰ(状況付与型図上演習) 訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである、災害対策本部運営訓練を経験するとともに、さまざまなシナリオを用いた状況付与型図上演習の考え方を学びます。	
2月6日	地域防災リーダーの育成 地域における防災リーダーの育成の意義と研修の企画、実施手法を学びます。	訓練企画運営実践Ⅱ(討議型図上演習) 訓練手法のうち討議型図上演習の一つである災害対応者のインタビューによる追体験演習を経験するとともに、さまざまな素材を用いたケースメソッドの考え方を学びます。		人材育成プログラム作成演習・閉講 様々な訓練・研修を組み合わせた人材育成のプログラムの作成手法や留意点について学びます。	

「総合監理」

◇コースコーディネーター◇ 岩田孝仁（静岡大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月7日	総合防災政策 総合的に防災政策を推進していくことの基本的な考え方を予防策から応急対策への流れに沿って学びます。	総合的な被害抑止施策の実施 水害や土砂災害、地震などの被害を抑止するための総合的な対策について学びます。		リスク評価に基づく災害対応の検証 防災アクションプランの意義と策定方法、事業評価の手法について学びます。	防災政策演習 具体的な被害想定を基に、どのような防災政策を立案して推進していくべきかを演習形式で学びます。
2月8日	応急対策の実態 災害対策本部における重要業務と応急活動の実態について学びます。	大規模災害の検証と対応 大規模災害がどのように検証され、どのような対応方針が示されているのかを学び、今後の災害への反映を考えます。	災害対策本部体制(演習) 災害対策本部体制を構築するために必要な体制、空間レイアウトなど事前に準備すべきことを学び、災害対策本部運営の流れと心構えを演習形式で学びます。		全体討論・閉講 総合防災政策立案について学んだことを、受講者がそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考えます。